

2 宮未来フロンティア制度 【別紙7】

(1) 宮未来フロンティア制度構築

本市においては、「宮っこ未来ビジョン」の策定やこのビジョンに基づいた様々な取組を通して、学校教育の課題解決を図るとともに、社会のニーズに対応しながら、主体的な教育行政を展開してきた。

今後は、グローバル化や人口減少社会の進展などが予想されることから、本市の未来を生きる宮っ子をよりよく育むため、このような取組に加え、本市自らが主体的に学校教育の水準向上を図ることが求められる。

このため、本市の実情に応じた学校教育を先駆的に研究する学校を指定し、この学校の研究成果を市内各小中学校に反映させ、実践による成果を十分に検証して新たな研究につなげるという循環を創る「宮未来フロンティア制度」の構築が必要である。

(2) 宮未来フロンティア校の指定

この宮未来フロンティア制度においては、特区申請による現行基準によらない教育課程編成や本市が指定した教育内容の研究推進により、学力などの基礎基本となる力はもとより、今後の社会に必要とされるコミュニケーション力や創造力など、児童生徒一人一人の人間力向上に係る内容を先駆的に研究する「宮未来フロンティア校」を指定する必要がある。宮未来フロンティア校は、以下の研究内容が考えられるが、学校指定にあたっては、様々な調査や意見を集約して、具体的な研究内容を検討する。

先駆的研究内容【例】

研究の位置付け	期待される効果	先駆的研究の具体例
先駆的教育内容 ・指導方法等の開発	「宮っこ」として必要な資質や能力、態度などの習得	「宮っこシチズンシップ科」設置
	美しい日本語を学び、日本人らしいコミュニケーション力習得	「国語古語科」設置
	芸術・文化等についての技能向上	「芸術文化科」設置
	外国の人や文化との交流を通し国際的コミュニケーション力習得	外国の小中学校との授業、児童生徒、教員交流活動の実施
	不登校児童等学校不適応児童生徒の人間力向上	家庭訪問とEラーニングシステム構築
	外国人子女に対する公民的資質の育成	インターナショナル教育の実践
小中一貫教育の推進	多様な表現力、社会性の育成	小中一体型施設活用
特別支援教育の充実	「よさ」や努力を認め合う共生・共育による教育実現	特別支援学校の設置

(3) 宮未来フロンティア校の展開

宮未来フロンティア校を指定することは、市内小中学校の特色ある学校づくりを推進し、児童生徒や保護者にとっては、選択できる学校が増えることにつながる。このような宮未来フロンティア校を指定するにあたっては、本市では地域に根ざした「地域の学校」を目指していることから、地域性や交通事情等、市内各地域の実情等を十分に踏まえるとともに、教育の機会均等を図る目的から、学区外からも通学できる受入枠を設けるなど、研究開発機能をもつ学校の在り方を総合的に検討する。また、学校の指定数については、当面はモデル校の成果や課題を十分に見極めた上で増加を検討する。

3 宮未来フロンティア校指定と通学区域制度

(1) 宮未来フロンティア校指定の基本的な考え方

本市においては、各地域に小中学校を設置しているが、宮未来フロンティア校については、教育委員会のもつ中長期的ビジョンのもと、社会のニーズはもとより、地域性や学校施設設備を勘案して計画的に指定する必要がある。

また、市域が広大である宇都宮市において、児童生徒が教育を受ける公平性の観点からの地理的条件等も検討し、学校を指定する。

ア 社会のニーズ

- 地域の特色や社会のニーズを十分に把握する。
- 児童生徒数の学力調査、実態調査等、各種調査を的確に分析し、本市学校教育の課題を明らかにする。

イ 地域性

- 幼稚園、高校等の教育機関、企業、大学等の研究機関、福祉施設等、地域における機関や施設の活用を考慮する。
- 学校の歴史、伝統、地域行事や地域コミュニティ活動を考慮する。
- その他、公共交通機関の整備状況、自然環境等の地理的条件はもとより、地域の開発計画などを勘案し、将来を見通した地域性を十分に考慮する。

ウ 学校施設設備

- IT 教室や作法室、校庭、体育館など既存の学校施設を十分な活用を考慮する。

(2) 通学区域制度

宮未来フロンティア校の通学区域については、これらの学校が公立の教育機関であることから、公平公正の観点から通学区域を検討する必要がある。このため、今後、宮未来フロンティア校の指定にあたり、通学区域の弾力化の導入についても検討する。

【宮未来フロンティア校】

	研究開発校	9年制教育学校
目的	基礎学力の定着，体力向上，創造力育成などの課題に対応した研究とその成果の全市的反映	発達段階に応じた指導の徹底により，学力やコミュニケーション力向上，多様な表現力，社会性の育成
対象	○小学校 ○中学校	○小学校 ○中学校
成果反映	○年1回の研究発表会を実施 ○研究報告書の作成 ○研究開発の成果を生かした教師による出前授業の実施	○研究報告書等により，全市小中一貫教育への反映 ○市内小中学校との交流会実施
指定条件	○本市における教育の課題研究を推進できる学校 ○学校や地域の創意工夫を生かして，研究開発課題を設定・申請も可	○児童生徒が十分に活動できる敷地や施設が確保できる学校 ○小中一貫教育推進が可能な教員が在籍

	特別支援教育パイロット校
目的	障害のあるなしにかかわらず，それぞれの「よさ」や努力を認め合う共生・共育の教育理念の実現
対象	○小学校 ○中学校
成果反映	○年1回の研究発表会を実施 ○特別支援学校との交流会実施 ○教員実地研修の実施
指定条件	○県教育委員会と調整するなどして，市教育委員会が指定